

【環境保全対策】

大気汚染	・火葬炉排出ガスは、集塵機等の排ガス処理設備により有害物質を除去する。
水質汚濁	・建設工事においては、初めに調整池を造成し、濁水が事業予定地外に流出しないようにするなどの対策を図る。 ・施設ゾーンの舗装や緑化により、雨水への土砂の混入を防ぐ。
土壌汚染	・建設工事においては、汚染土壌の外部からの搬入を防ぐとともに、造成時に発生する残土等については区域内利用に努め、事業予定地外との土壌の搬入・搬出は極力行わない。
騒音	・騒音の発生する機器には防音対策を実施する。 ・進入路及び駐車場内の自動車による騒音の低減を図るよう、制限速度を設定する。 ・建設工事においては、建設工事用機械は極力低騒音型を使用する。
振動	・振動が発生する機器は、堅固なベース上に設置して、振動が外部に伝わるのを防ぐ。 ・進入路及び駐車場内の自動車による振動の低減を図るよう、制限速度を設定する。 ・建設工事においては、低振動型の建設機械を使用する。
悪臭	・火葬炉排出ガスは再燃焼炉で処理することにより、排出口からの悪臭物質の発生を抑制し、周辺への影響を防止する。
植物	・緩衝緑地は、仕様書に基づき適切な維持管理を行う。 ・施設ゾーン内の緑地は、事業予定地内の潜在自然植生を考慮した緑地の創出をおこなう。（コナラ、シラカシ等） ・造成により消失する樹林帯（高木、低木等）を施設内の緑地や景観上植栽が必要な場所に可能な限り移植する。
動物	・緩衝緑地は、仕様書に基づき適切な維持管理を行う。 ・施設の窓については、鳥類の衝突防止対策を実施する。 ・雨水排水路については、動物（カエル類や徘徊性の昆虫類など）の移動の妨げになる U 字溝の設置は必要最小限にとどめ、動物の落下防止対策を実施する。 ・施設ゾーン内の植栽は、動物の移動経路として利用できるように連続性のある配置に配慮する。 ・進入道路は、林の分断によるインパクトを少なくするよう、植栽などの対策を実施する。 ・進入道路は、ニホンアカガエルの生態を十分考慮して、林内での移動の障害とならない道路設計とする。

	・調整池は、自然工法を用いるなど、生物の移動に支障をきたさない構造にする。（フェンス等を設置する場合も配慮する。） ・調整池は、ニホンアカガエルの産卵や水生昆虫類のため、4～8月は一定の水位を保つよう配慮する。 ・夜行性の動物保護のため、業務終了後の夜間の車両の乗り入れを抑制するよう配慮する。 ・走光性昆虫類の保護、夜行性の動物に配慮するため、夜間は最小限の照明にとどめる。
景観	・周辺の林の樹高を考慮して火葬棟、待合棟及び式場棟の高さを設定する。 ・建物の配色は、周辺環境に調和したものとする。 ・建設地周辺から建築物が見えにくくなるよう、複数列の植樹を実施する。
電波障害	・施設建設により影響を及ぼすと予測される地域において、供用開始後モニタリングを実施し、共同受信施設の設置、東京局の受信、受信アンテナの改善等によりテレビ受信の影響の低減を図る。